

浜岡原発は老朽化した1、2号機は運転を終了し、3号機は定期点検中です。しかし福島原発事故の後も4号機、5号機が運転中です。この原発は近い将来確実に起きると言われる東海地震の予想震源域にあり、福島原発に続く原発震災が心配される非常に危険な原発なのに運転を停止していません。

特に2009年8月11日に起きたM6.4の小規模地震の影響で、今年1月まで止まっていた5号機の耐震性は驚くほど脆弱です。普通の民家には何の異常もなかったのに、5号機は1〜4号機と比べても桁違いに大きい地震波を受け、タービン軸受部のボルトが折れるなどの大きなダメージを受けたのです。地震後視察に入りましたが驚くべき被害でした。

半径30キロ圏内に100万人が暮らす

私たちは16年前から5号機の地盤の悪さを指摘していましたが、図らずもそのことが証明されてしまったのです。しかも浜岡原発の下には活断層があります。もし東海地震がこのまま起きれば、福島第一原発と同じ制御不能の状態になります。津波にも耐えられません。福

いつまで無関心で済みますのか 今すぐ浜岡原発の 運転中止を

福島第一原発は地震による津波で冷却機能を失い大事故に至った。ところが東海地震の予想震源域に位置する浜岡原発は未だに運転を続けている。地元で長年、反対運動を続けてきた伊藤実さんに話を聞いた。

(聞き手=温井立央)



伊藤実さん

島第一原発の事故を受け、中部電力は12メートルの堤防を建設すると言いましたが、完成までには数年かかります。海岸にある砂丘が防波堤となるとも言っています。ただの土塁が1キロほどあるだけです。しかも新野川と箴川（おさがわ）に囲まれているので、大津波がくればあつというまに波に飲み込まれます。

さらにサイト前面は遠浅の海で、冷却水の取り入れ口は600メートル先にあります。津波がくる前に潮が引いてしまつたら、空気を吸い込んだ冷却ポンプはダウンします。

福島原発事故と同様、半径30キロ圏内の人が避難する事態になれば100万人近い人が移動しなければなりません。これまでに10キロ圏内の御前崎、掛川、菊川、牧之原の4市と避難訓練などを行ってきました。しかし30キロ圏内になれば新たに、磐田・袋井・島田・藤枝・焼津の5市と、森・吉田の2町が加わります。静岡県の人口374万人のうち、おおよそ3分の1が避難することになるわけです。

首都圏から 最も近い原発で何かあれば

しかし信じがたいことに、福島原発事故が未だ収束する目途すら立っていない3月23日、中部電力の水野明久社長は記者会見で「6号機の着工を1年延期。4号機で計画しているプルサーマルの工程を見直す」としながらも、「3号機の運転再開を早ければ4月上旬に行う」と発言しました。なぜすぐに運転中の4、5号機を止め、さらに今後の計画を中止しないのでしょうか。

東京でも3月27日に脱原発デモがあり、私の妻も参加しました。しかし沿道の人々は、「浜岡原発止める」のプラを受け取るうとせず、ただ笑っていたそうです。あまりにも危機感がありません。先日、BBCやドイツ、フランス、韓国、中東のアルジャジーラなどの海外プレスを浜岡現地まで案内しましたが、「なぜ日本人は怒らないのだ」と不思議がっていました。

次の世代のために、原子力発電のシステムは止めるべきだと私たちはずっと言い続けてきました。浜岡で防ごうとしてきた原発震災が福島で起きたのは本当に悲しいし、悔しいです。

電力会社は原発を止めると電力が不足すると言いますが、原発を止めても電力は不足しません。停止している火力発電所を動かす、無駄な電気の使用を止めれば停電にはなりません。

今こそ首都圏の皆さんが、自身の問題として浜岡原発を止める大きなムーブメントを起こしてほしいと思います。東京は浜岡原発の風下にあり、しかも直線距離にして約180キロと最も近い原発です。事故が起これば放射能が到達します。まさに一蓮托生なのです。

6